

2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2024年2月9日

東

上場会社名 株式会社ジャムコ 上場取引所
コード番号 7408 URL <https://www.jamco.co.jp/>
代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 阿部 俊之
問合せ先責任者(役職名) 常務執行役員 (氏名) 後藤 健太郎 (TEL) 042-503-9145
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	44,392	39.3	1,404	△11.0	526	△60.4	1,267	3.0
2023年3月期第3四半期	31,873	18.7	1,577	—	1,328	—	1,231	—

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 1,472百万円(△0.8%) 2023年3月期第3四半期 1,484百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	47.25	—
2023年3月期第3四半期	45.90	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	102,964	14,492	14.0
2023年3月期	100,794	13,383	12.9

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 14,466百万円 2023年3月期 13,019百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	71,800	52.0	5,000	188.4	3,200	183.9	2,280	4.9	85.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	26,863,974株	2023年3月期	26,863,974株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	24,852株	2023年3月期	39,089株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	26,833,427株	2023年3月期3Q	26,824,989株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、経済・社会活動の正常化により回復基調を維持しています。一方で、長期化するウクライナ情勢によるエネルギー価格の変動や原材料価格の上昇、世界的な金融引締めに伴う影響や中国の景気減速など、依然として不透明な状況が続きました。このようなかで、ドル円為替相場は対米ドル円レート131円台から151円台で推移しました。

航空輸送業界では、新型コロナウイルス感染症の鎮静化により旅客需要が回復し、エアラインでは大口の機体発注などの動きが見られ、これを受けて航空機メーカーは機体の増産に取り組んでいます。一方で、機材の運航や空港施設、加えて機体製造に係わるサプライチェーン全体においては人材不足となり、人材確保が急務となっています。

このようなかで当社グループでは、2030年におけるジャムコグループのあるべき姿、進むべき方向性を明文化したJAMCO Vision 2030を実現するための三本柱として、JX：ジャムコ・トランスフォーメーション（業務改革）、SX：サステナビリティ・トランスフォーメーション、HRX：ヒューマンリソース・トランスフォーメーションのタスクチームを設置して、当社業務の基礎課題を解決すべく推進体制の強化を行いました。

航空機内装品等製造関連においては、航空旅客需要の回復に伴い、航空機メーカーの増産やエアラインのスペアパーツ需要の増加に対応すべく、増産体制強化に取り組みました。又、製造工程においては、グループ全体の経営資源の有効活用、効率化・合理化による経営基盤の強化を図るため、国内子会社の統合を決定し、その準備を進めると共に、フィリピン工場の能力・機能拡張計画や国内外のサプライチェーンの強靱化に取り組みました。

航空機シート等製造関連においては、ボーイング787型機以外の他機種展開に取り組んできたビジネスクラス・シート「Venture」がKLMオランダ航空のボーイング777型機のワールドビジネスクラスシートに初めて採用され、運航が開始されました。又、米国におけるインフレーションへの対策として一部の組立業務をメキシコへ移管するなどコスト削減に取り組みました。

航空機器等製造関連においては、生産性改善の取り組みを行うと共に、熱可塑性CFRP（炭素繊維強化プラスチック）を活用した航空機用軽量機体部材の開発やCFRP部材の航空機分野以外への展開を進めました。

航空機整備等関連においては、飛行安全の確保と品質向上の取り組みを継続すると共に、エアライン、官公庁向け整備の受注に努め、安定した収益を上げるため事業基盤の強化に取り組みました。更に、無人航空機（ドローン）に対する運用サポートなどの新規事業分野への取り組みも開始しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高 44,392百万円（前年同四半期比 12,519百万円増）、営業利益 1,404百万円（前年同四半期比 173百万円減）、経常利益 526百万円（前年同四半期比 802百万円減）、親会社株主に帰属する四半期純利益 1,267百万円（前年同四半期比 36百万円増）となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間末に第4四半期連結会計期間以降の完成工事に対する工事損失引当金を 4,308百万円計上しております。この工事損失引当金による期間損益への影響は、当第3四半期連結会計期間において売上原価 373百万円の減少（第2四半期連結会計期間末の工事損失引当金は 4,682百万円）、又、当第3四半期連結累計期間においては売上原価 28百万円の増加（2023年3月期末の工事損失引当金は 4,280百万円）となりました。

グループ全体の販売費及び一般管理費、営業外損益、法人税等調整額の状況は次のとおりです。

販売費及び一般管理費は、人件費、試験研究費及び販売手数料の増加などにより 6,903百万円（前年同四半期比 861百万円増）となりました。

営業外損益は、為替差損益が悪化したことや米国ドル金利の上昇により支払利息が増加したことなどから 877百万円の損（前年同四半期は、248百万円の損）となりました。

法人税等調整額は、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、繰延税金資産の計上により△768百万円（前年同四半期は、145百万円）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

[航空機内装品等製造関連]

当事業では、ボーイング787型機向け製品の出荷が再開したことや運航機数の増加によりエアライン向けスペアパーツ販売が増加したことなどから、前年同四半期に比べ売上高は増加しました。又、経常利益については、原価高の影響などがあったものの、利益率の高いスペアパーツ販売の増加に加え、外貨建て売上高の円安による効果などから増加しました。

この結果、航空機内装品等製造関連は、売上高 28,109百万円（前年同四半期比 7,852百万円増）、経常利益 3,548百万円（前年同四半期比 741百万円増）となりました。

[航空機シート等製造関連]

当事業では、ボーイング777型機向けビジネスクラス・シート「Venture」の出荷が開始されたことなどから、前年同四半期に比べ売上高は増加しました。一方、経常損益については、他機種展開に伴う初期費用の増加、米国におけるインフレーションや円安によるドル建てコストの上昇などにより経常損失となりました。

この結果、航空機シート等製造関連は、売上高 6,707百万円（前年同四半期比 4,427百万円増）、経常損失 2,912百万円（前年同四半期は、経常損失 1,537百万円）となりました。

[航空機器等製造関連]

当事業では、熱交換器等装備品の出荷が増加したことから前年同四半期に比べ売上高は増加しました。一方、経常損益については、原価高の影響などにより経常損失となりました。

この結果、航空機器等製造関連は、売上高 3,808百万円（前年同四半期比 698百万円増）、経常損失 252百万円（前年同四半期は、経常損失 68百万円）となりました。

[航空機整備等関連]

当事業では、部品整備において出荷が減少したことなどから前年同四半期に比べ売上高は減少しました。一方、経常利益については、機体整備が堅調に進捗したことにより採算性が向上し増加しました。

この結果、航空機整備等関連は、売上高 5,766百万円（前年同四半期比 458百万円減）、経常利益 146百万円（前年同四半期比 18百万円増）となりました。

[その他]

その他の区分には、連結子会社の株式会社オレンジジャムコの事業を含んでおり、当社施設内の清掃及び補助的作業等セグメント間の内部取引が中心です。

この結果、その他の区分では、売上高 1百万円（前年同四半期比 0百万円増）、経常損失 2百万円（前年同四半期は、経常損失 0百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産・負債・純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は102,964百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,169百万円増加しました。内、流動資産については、現金及び預金の減少(前期末比3,304百万円減)等がありましたが、仕掛品の増加(前期末比2,250百万円増)、商品及び製品の増加(前期末比1,018百万円増)、原材料及び貯蔵品の増加(前期末比901百万円増)等により流動資産合計で前連結会計年度末に比べ1,254百万円増加しました。又、固定資産については、投資その他の資産の増加(前期末比1,130百万円増)、無形固定資産の増加(前期末比222百万円増)等により固定資産合計で前連結会計年度末に比べ915百万円増加しました。負債合計は88,471百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,060百万円増加しました。主な要因は、前受金の減少(前期末比1,517百万円減)等がありましたが、支払手形及び買掛金の増加(前期末比1,637百万円増)、電子記録債務の増加(前期末比1,606百万円増)等によるものです。

純資産合計は14,492百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,109百万円増加しました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加等によるものです。この結果、自己資本比率は14.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月12日に公表した連結業績予想の変更はありません。

又、連結業績予想の前提となる第4四半期連結会計期間の為替レートは140円/米ドルとしております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,334,303	5,029,657
受取手形、売掛金及び契約資産	17,615,106	17,569,558
商品及び製品	1,611,483	2,629,697
仕掛品	26,231,269	28,481,859
原材料及び貯蔵品	20,890,021	21,791,606
その他	2,681,843	3,112,933
貸倒引当金	△42,366	△39,597
流動資産合計	77,321,661	78,575,715
固定資産		
有形固定資産	11,590,565	11,153,304
無形固定資産	1,807,682	2,030,012
投資その他の資産	10,074,709	11,205,387
固定資産合計	23,472,956	24,388,704
資産合計	100,794,618	102,964,419
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,719,765	6,357,690
電子記録債務	2,997,441	4,603,818
短期借入金	50,022,940	51,691,100
1年内返済予定の長期借入金	1,060,000	60,000
未払法人税等	700,808	74,951
前受金	8,374,234	6,857,156
賞与引当金	1,237,674	969,373
工事損失引当金	4,280,336	4,308,965
その他	3,638,895	3,934,232
流動負債合計	77,032,097	78,857,288
固定負債		
長期借入金	1,250,000	1,220,000
退職給付に係る負債	6,702,461	6,601,918
損害補償損失引当金	972,797	773,562
製品保証引当金	1,166,789	771,891
その他	286,896	247,028
固定負債合計	10,378,944	9,614,401
負債合計	87,411,041	88,471,690

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,359,893	5,359,893
資本剰余金	4,318,925	4,328,358
利益剰余金	2,819,869	4,087,810
自己株式	△31,405	△19,966
株主資本合計	12,467,283	13,756,096
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	176,474	169,929
繰延ヘッジ損益	-	33,674
為替換算調整勘定	424,767	553,280
退職給付に係る調整累計額	△48,564	△46,678
その他の包括利益累計額合計	552,677	710,205
非支配株主持分	363,616	26,427
純資産合計	13,383,576	14,492,729
負債純資産合計	100,794,618	102,964,419

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
売上高	31,873,038	44,392,984
売上原価	24,253,723	36,084,862
売上総利益	7,619,315	8,308,121
販売費及び一般管理費	6,041,967	6,903,876
営業利益	1,577,348	1,404,245
営業外収益		
受取利息	29,717	51,246
受取配当金	3,664	4,220
為替差益	704,078	257,991
持分法による投資利益	-	47,934
受取保険金	11,911	30,521
助成金収入	53,750	78,212
その他	31,176	29,541
営業外収益合計	834,299	499,670
営業外費用		
支払利息	827,556	1,190,365
持分法による投資損失	17,132	-
売掛債権譲渡損	122,756	145,377
支払補償費	9,550	13,744
その他	105,809	27,634
営業外費用合計	1,082,804	1,377,120
経常利益	1,328,842	526,794
特別利益		
固定資産売却益	461,890	2,642
助成金収入	120,041	-
投資有価証券売却益	-	75,538
特別利益合計	581,931	78,181
特別損失		
固定資産処分損	6,086	14,474
新型コロナウイルス感染症関連損失	96,935	-
特別損失合計	103,022	14,474
税金等調整前四半期純利益	1,807,751	590,501
法人税、住民税及び事業税	400,519	86,928
法人税等調整額	145,375	△768,778
法人税等合計	545,894	△681,850
四半期純利益	1,261,856	1,272,352
非支配株主に帰属する四半期純利益	30,677	4,410
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,231,178	1,267,941

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	1,261,856	1,272,352
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8,756	△6,545
繰延ヘッジ損益	31,348	33,674
為替換算調整勘定	220,522	191,096
退職給付に係る調整額	△20,127	1,886
持分法適用会社に対する持分相当額	-	△19,975
その他の包括利益合計	222,987	200,136
四半期包括利益	1,484,844	1,472,489
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,426,193	1,425,469
非支配株主に係る四半期包括利益	58,650	47,019

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	航空機 内装品等 製造関連	航空機 シート等 製造関連	航空機器等 製造関連	航空機 整備等関連	計		
売上高							
外部顧客への売上高	20,256,837	2,279,785	3,109,531	6,225,083	31,871,237	1,800	31,873,038
セグメント間の内部 売上高又は振替高	293,838	-	2,887	27,889	324,615	89,067	413,682
計	20,550,675	2,279,785	3,112,418	6,252,972	32,195,853	90,867	32,286,721
セグメント利益 又は損失(△)	2,807,530	△1,537,452	△68,138	127,406	1,329,346	△504	1,328,842

(注) 「その他」の区分には、関係会社の㈱オレンジジャムコの事業を含んでおります。同社は企業の社会的責任の一つである障がい者の雇用促進のための特例子会社であり、主に当社施設内の清掃及び補助的作業を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,329,346
「その他」の区分の利益	△504
四半期連結損益計算書の経常利益	1,328,842

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	航空機 内装品等 製造関連	航空機 シート等 製造関連	航空機器等 製造関連	航空機 整備等関連	計		
売上高							
外部顧客への売上高	28,109,328	6,707,433	3,808,062	5,766,180	44,391,005	1,979	44,392,984
セグメント間の内部 売上高又は振替高	195,430	-	499	29,982	225,912	100,120	326,033
計	28,304,759	6,707,433	3,808,561	5,796,163	44,616,918	102,099	44,719,017
セグメント利益 又は損失(△)	3,548,546	△2,912,935	△252,395	146,064	529,280	△2,485	526,794

(注) 「その他」の区分には、関係会社の㈱オレンジジャムコの事業を含んでおります。同社は企業の社会的責任の一つである障がい者の雇用促進のための特例子会社であり、主に当社施設内の清掃及び補助的作業を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	529,280
「その他」の区分の利益	△2,485
四半期連結損益計算書の経常利益	526,794

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。